

令和5年11月29日

【問い合わせ先】

茨城県霞ヶ浦環境科学センター

担当：研究調整監 山口

電話：029-828-0964

【報道関係者各位】

茨城県の環境の今－霞ヶ浦の流入負荷と大気環境の変遷－

茨城県霞ヶ浦環境科学センター・公開セミナーを開催

茨城県霞ヶ浦環境科学センターでは、日頃、センター職員が行っている霞ヶ浦などの水環境や大気環境に関する調査研究について、**県民の皆様により分かりやすく発表を行う公開セミナー「茨城県の環境の今」**を開催します。

報道関係の皆様におかれましては、取材を賜りたくご案内申し上げます。

(日時) 令和5年12月2日(土) 13:30～15:45

※ハイブリッドによる開催(定員 会場：80名、オンライン：100名)

(会場) 茨城県霞ヶ浦環境科学センター 多目的ホール(茨城県土浦市沖宿町1853番地)

基調講演「近年の集中豪雨の経年変化と大雨をもたらす線状降水帯」

気象研究所 台風・災害気象研究部 部長 加藤 輝之 氏

近年発生している集中豪雨においてよく耳にする線状降水帯についてお話しいたします。

【講師プロフィール】

1964年生まれ。1987年気象大学卒業。気象庁海洋気象部海上気象課を経て、気象研究所予報研究部在籍中に1998年に東京大学から博士(理学)を取得。その後、気象庁予報部数値予報課数値予報モデル開発推進官、気象庁観測部観測課観測システム運用室長、気象大学校教頭、気象研究所応用気象研究部部長を歴任後、現職。2006～2010年、2012～2017年には筑波大学連携大学院准教授、教授を兼務。

研究発表

○霞ヶ浦における流入負荷の長期変化とその要因－霞ヶ浦の流入負荷はどう変化？－

湖沼環境研究室 主任 大内 孝雄

霞ヶ浦は、流域における人口増加や産業活動の進展などに伴い、昭和40年代後半から水質汚濁が進行し、県では、条例による規制や保全計画に基づく取組を進めています。本発表では、霞ヶ浦の水質や流入する負荷について、長期的な変化をご説明するとともに、その理由について、当センターの調査結果を交えてお話いたします。

○茨城県における大気環境の変遷について－大気には何が含まれているの？－

大気・化学物質研究室 主任 齋藤 佑樹

空気の組成は窒素、酸素が大部分を占めておりますが、それ以外にも人の健康や動植物に影響を与えるおそれのある物質が含まれています。県では良好な大気環境を保つため、こうした物質について、様々な調査を実施しております。本発表では約50年蓄積されたデータをもとに、県内の大気環境がどのように移り変わったかを報告します。

分析室案内ツアー(希望者のみ) 所有する測定機器や実施している分析について紹介します。